

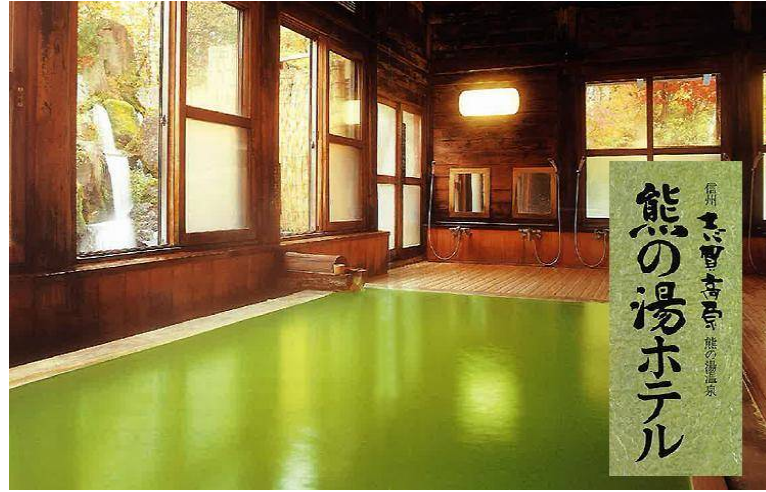
<特徴のある宿13>

緑色の湯の宿

1 長野県 熊の湯温泉 熊の湯ホテル



硫黄やマグネシウムを多く含む黄緑色の湯は、口に含むと強烈な苦味がある。色はその日の天候や気温により、乳緑色や緑かかった透明になる。透明度が高い緑色を見るには、早朝や深夜がおすすめ。



温泉分析書 Check!

硫酸水素イオン	HS <sup>-</sup>	53.9	1.43	11.40
遊離硫化水素	H <sub>2</sub> S	19.3		0.57

硫化水素イオン(HS<sup>-</sup>)53.9mg  
遊離硫化水素(H<sub>2</sub>S)19.3mg

硫化水素イオンが多いと透明な緑色になる。「熊の湯」の硫化水素イオンの量は53.9mgと非常に多いが、実は長野・五色温泉(pH20)と比べるとそう変わらない。ただ、五色温泉と異なるのは白濁の原因となる遊離硫化水素がほとんどなく、硫化水素イオンの量がこれを圧倒している。「そのため乳白よりも緑が強く、その微妙なバランスの上に熊の湯独特の黄緑色が出るのかもしれない」と郡司さん。

(6)水素イオン濃度 pH 7.5

ややアルカリ系。酸性だと白くなりやすいが、アルカリに傾いているために白濁が過度に抑えられて、よりいっそう緑の発色が鮮やかになる。

含硫黄・カルシウム・ナトリウム・炭酸水素塩・硫酸塩(自家源泉) / 総動力揚湯 / 湧出量100ℓ / 泉温48.2度 / pH7.5 / 成分総計1.279g / 完全放流式 / 加水あり / 加温なし / 塩素消毒なし



湯は佐久間象山に発見されたと伝えられ、志賀高原最古ともいわれている。

3 岐阜県 福地温泉 元湯孫九郎

奥飛騨温泉郷の湯で緑に濁るのはこの宿の露天風呂だけ。露天には成分の違う2本の源泉を混合して注いでいる。どちらも無色透明だが、互いの成分が反応して発色。新湯の入れ替えでは満水になる頃に完全に緑褐色に変わっている。温泉の歴史は古く、約1000年前、時の村上天皇が病氣療養した古湯で別名「天皇泉」とも呼ばれている。



2 岩手県 国見温泉 石塚旅館

硫黄泉と炭酸水素塩泉二つの効能を持ち硫黄泉の中でも、硫化水素型になる。湯色は珍しい緑色で有名。源泉100%掛け流し黄緑色の温泉で硫化水素の匂いが強く、湯の花がたくさん沈殿している。源泉50度、毎分200L湧出。主に登山客、温泉マニア(特殊な湯質ゆえ)、湯治客(湯治施設あり)に人気がある。

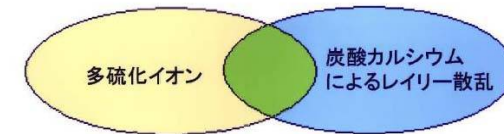
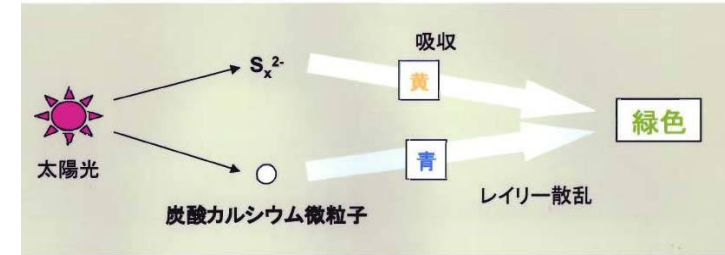


男性薬師湯



女性薬師湯

結論として! 緑色の原因として考えられること



多硫化イオンの黄色と炭酸カルシウムによるレイリー散乱で生じる青色の合成色で温泉水が緑色を呈していると考えられる。

標高850m、駒ヶ岳5合目にある。雪と閉ざされる11月上旬～5月上旬は営業していない。

4 鹿児島県 妙見温泉 おりはし旅館

この宿は妙見温泉でも最も古い。5種の風呂に源泉は3本、どれも鉄分を含んでいて成分は似ている。緑白色に濁るのが露天風呂。

自然に囲まれた約7万坪の広い敷地には大正時代の建築の本館、2棟の離れ「樟庵」・「有楽」、自炊棟、別館「山水荘」、露天風呂などが点在している。

